

< 介護・医療連携推進会議における評価_ > ※公表用

【事業所概要】

法人名	株式会社 太陽メディケアサービス	事業所名	メッツ川崎ヘルパーステーション
所在地	(〒 940 - 0864) 新潟県長岡市川崎2丁目2478番地1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・ 一体型のメリットを活かし、介護看護の連携・情報共有を強化、ケアマネ・医療機関などとの連携を強化し、その方の有する能力に応じた日常生活を営むことができるようケアサービスを行う。
- ・ 法人内研修や取引業者が開催する研修会を活用し、職員へのサービス・制度理解の向上を図っている
- ・ ICTの積極活用により、即時性のある情報共有を図っている

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2024 年 11 月 1 日	従業者等自己評価 実施人数	(21) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2024 年 2 月 21 日	出席人数 (合計)	(6) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	☐ 自事業所職員 (2 人) ☐ 市町村職員 (0 人) 地域包括支援センター職員 (1 人) ☐ 地域住民の代表者 (1 人) ☐ 利用者 (0 人) ☐ 利用者の家族 (1 人) ☐ 知見を有する者 (1 人) ☐ その他 (0 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目		前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		・事業所の理念や定期随時サービスの制度知識等について定期的に研修や資料により伝達していく機会を設け、職員の知識向上を目指す。 ・BCP に沿った、感染症と災害時について研修会やロールプレイを行い、災害、有事の時の支援体制を活用出来るよう見直しする。	・年度初めの会議にて理念や定期随時サービスについて周知するための勉強会を実施。半期の今期目標の振り返りの際にも理念について周知する場を設けている ・BCP の机上訓練では BCP の基礎知識を中心に学ぶ研修会を実施。年 2 回の消防訓練では水害、地震も想定した避難訓練を実施した。また、感染症発生時のロールプレイを実施。ガウンテクニックや吐物処理のロールプレイも実施した。	・必須研修項目の増加など研修日程を組むことに苦労した。 ・BCP の見直しや更新時期をどのようにしていくか、またそれを職員に周知させることが難しかった。 ・机上訓練により BCP とは何か、BCP を活かすために自分たちが有事の際に何をすべきかを考える機会となった。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	・生活リズムの把握を行い適正なサービスを提案していくために担当の利用者以外にも目を向け、日々のミーティングや事業所会議での情報共有に努める。 ・利用者の意向をサービス側が理解し、寄り添い、本人の有する力をうまく活用しながら未来志向型の計画作成を立てるために、現状とその先を見据えたアセスメントを日頃から全職員が行えるような仕組みを構築する。	・排泄パターンや行動パターンを意識し、援助時間や手順書の見直し、ケアマネ・ご家族への情報提供を細かく実施した。また、都度職員への周知を実施し意識付けた ・上記事項を意識するため、ミーティング内での情報共有とカンファレンスの実施、事業所会議での情報共有に努めている。担当利用者だけでなく、全体を意識し発信できるように今期も職員目標を「受動的から能動的」として取り組んでいる。	・計画作成者、サービス提供責任者と介護、看護の連携を強化しより適切な援助の見直しを行い、手順書に反映し援助を行うことが重要となる。 ・引き続き利用者の意向をご家族、サービス側が理解し、意向に寄り添い、本人の有する力をうまく活用しながら未来志向型の計画作成に臨んでいきたい。 ・事業所が利用者の一歩の理解者であるということを意識し、日々の状態変化について家族や関係各所へ報告、相談し計画の作成を行っていく。

	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	・利用者に合う多職種のサービスが提案できるように情報収集していく。 ・随時、地域のサービス情報の確認をする。	・実際は、配食サービスやふれあい収集制度以外の活用には至っていない。 ・利用できるサービスがあるか情報を探った。一時的な福祉用具の利用が必要な際の車椅子貸与や訪問介護利用者への見守りサービスなど定期随時の利用につながらないケースの一時的な支援としてご家族に提案できるよう知見を広げている。	・こぶし美沢様のように地域の活動に出向くなど実際の声を聞くことで本当に必要なサービスについて考えていきたい。 ・サービス開始時には近隣住民や友人など協力を得られる関係性がないかの確認を行い、インフォーマルサービスとして活用できるか確認する必要がある。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)	・事業周知の為の説明会の定期開催を継続していく。 ・地域代表の推進委員と連携し、事業所近隣の地域の利用ニーズについて随時確認し、説明会等を実施する。	・居宅介護支援事業所2か所への施設見学会と弊社の介護保険サービスについての説明会を実施した。その中で定期随時の特色などを説明し、実際のプラン例や料金例を知ってもらう機会となった。3名(訪問1名、定期随時2名)の紹介につながった。	・事業所として職員へ定期随時についての知識をより深める勉強会を行い、訪問時や地域の方からの問い合わせの際に適切な返答ができるようにし、地域在宅の働きかけを行い推進していきたい。 ・地域の利用ニーズの把握や説明会を行うことができなかった。見学会や勉強会を地域に向けても行い、地域へ働きかけていきたい。
III. 結果評価 (評価項目 33～34)		・「本人が望む生活」を目指し、その人らしく暮らせているか勉強会で培ったモニタリング技術を元に計画書に反映し、日々のミーティングを通してアセスメントを行い、安心して在宅生活が継続できるよう支援する。	・モニタリングだけでなく、日々の状態変化に目を向け、ミーティングやカンファレンスを活性化させた。介護・看護とその他職種の情報共有と連携を強化し、情報を即時で援助内容や手順書に落とし込み生活の質の向上につながるよう努めた。	・本人が望む生活や得られる安心感は利用者ごとで違うということを意識し、その方の今の自己実現の欲求とは何かを考え意向に寄り添い、在宅生活の質が向上するよう常に意識していくことを大切にしたい。その為にもモニタリングでの目標達成状況の把握と、状態変化による計画の変更や見直しの検討を行い目標達成に近付けていきたい。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	・必須研修項目の増加など研修日程を組むことに苦労した。 ・BCP の見直しや更新時期をどのようにしていくか、またそれを職員に周知させることが難しかった。 ・机上訓練により BCP とは何か、BCP を活かすために自分たちが有事の際に何をすべきかを考える機会となった。	・法人として、必須項目のような机上で行う研修については来期よりイーラーニングシステムを取り入れる。援助の間に研修を受けることで職員の負担軽減に努めていく。 ・BCP に沿った、感染症と災害時について机上訓練、ロールプレイを実施。地域の状況を含め地域在宅の方の個別避難計画へ活かしていく。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21) ・計画作成者、サービス提供責任者と介護、看護の連携を強化しより適切な援助の見直しを行い、手順書に反映し援助を行うことが重要となる。 ・引き続き利用者の意向をご家族、サービス側が理解し、意向に寄り添い、本人の有する力をうまく活用しながら未来志向型の計画作成に臨んでいきたい。 ・事業所が利用者の一番の理解者であるということを意識し、日々の状態変化について家族や関係各所へ報告、相談し計画の作成を行っていく。	・アセスメント、モニタリングから利用者の意向を汲み取り個別計画に反映させる。その為にも 1 日 3 回の小ミーティングを継続、内容の充実を図る。 ・今年度作成したケアチェックシートを活用し、誰が見ても利用者の援助について理解できる体制を構築する。新人職員の利用者理解にも活用していく。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27) ・こぶし美沢様のように地域の活動に出向くなど実際の声を聞くことで本当に必要なサービスについて考えていきたい。 ・サービス開始時には近隣住民や友人など協力を得られる関係性がないかの確認を行い、インフォーマルサービスとして活用できるか確認する必要がある。	・利用者の日々の状態を医療機関やケアマネージャー、ご家族へ随時報告し、援助内容をその方に合ったものに変更していく。その際に、連携機関からもインフォーマルサービスの情報を確認し取り入れていく。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28～32) ・事業所として職員へ定期随時についての知識をより深める勉強会を行い、訪問時や地域の方からの問い合わせの際に適切な返答ができるようにし、地域在宅の働きかけを行い推進していきたい。	・地域活動へ包括と相談しながら参加し、地域活動を通してインフォーマルサービスとして活用できるものを取り入れていく。 ・随時、地域のサービス情報の確認をする。

		・地域の利用ニーズの把握や説明会を行うことができなかった。見学会や勉強会を地域に向けても行い、地域へ働きかけていきたい。	・事業周知の為の説明会の定期開催を継続していく。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)		・本人が望む生活や得られる安心感は利用者ごとで違うということを意識し、その方の今の自己実現の欲求とは何かを考え意向に寄り添い、在宅生活の質が向上するよう常に意識していくことを大切にしたい。その為にもモニタリングでの目標達成状況の把握と、状態変化による計画の変更や見直しの検討を行い目標達成に近づけていきたい。	・「本人が望む生活」を目指し、地域連携を図り地域全体で本人の望む生活を実現できるよう、近隣住民との連携を主とした具体的な方法を模索していく。 ・地域在宅の推進を強化するため、地域活動に出向き定期随時サービスを周知する。

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

